

子育て中の女性が中心となって 人や地域を育てる

一人・企業・地域をつなぎ、地域の課題を解決



NPO法人ワークライフ・コラボ
事業コーディネーター
・高橋 浩子

◆◆◆ 多様な働き方の実践者

私たちNPO法人ワークライフ・コラボ（以下ワークラ）は、ワークライフバランスをテーマに「人・企業・地域」三方をつなぎ豊かな未来へ」を目指して愛媛県松山市を拠点に活動している。地方の特性として行政との距離感が近いこともあり、平成23年からは女性活躍推進事業を中心に、少子化対策事業や起業支援など、受託事業や、自主事業を地域と協働しながら取り組んでいる。

ワークラで働くスタッフは、理事長を含む8人全員が子育て中の女性で、時間制のあるなしに関わらず、子連れ出勤やフレックスタイム制、在宅勤務などの制度を活用しながら、職務を遂行している。また、地域においてもそれぞれの役割を担う多様な生活実践者である。

◆◆◆ 個人の悩みを 地域で解決するために必要なこと

私がワークラの存在を知ったきっかけは、平成24年度愛媛県未来づくり協働提案事業を受託し作成された、愛媛県で活躍する女性10人にスポットをあてた冊子「switch」を、地域の公民館で手にしたことだった。巻末には「もう一度自分の生き方を見つめ、次のステップに登ろうとする女性のために作られました」という言葉と共に、冊子を作った5人の主婦ライターが奮闘記が編集後記につづられていた。地方でも仕事も生活もあきらめずに前進している10+5人の等身大の女性たちがとても身近に感じられ、会ってみたいと思った。冊子の中の人物との出会いが転機となり、後日ワークラのスタッフとなることにつながっている。

結婚、パートナーの転勤（転職）に伴う転居、

◆◆◆ 人を育てることは地域を育てること

ワークラが次世代育成の視点から展開する事業に、小学生の長期休暇中の預かりプログラム「まちのがっこう」や、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）（平成26年～31年まで）の参加大学の一つである松山東雲女子大学・松山東雲短期大学から受託している「地方における女性のワークライフバランス」プロジェクトがある。「まちのがっこう」は、長期休暇中の子どもを預け先に苦慮している保護者（多くは母親）を支援・子どもの非認知能力（学力でははかれない生きる力）を育む・地域（企業）と子どもをつなぐ、3つの目的を併せ持っている。

また、COC+事業では、女子学生が愛媛県内で働き、かつ家庭を築き生活するということをよ



ワークラスタッフは全員子育て中



ワークラが行政と協働で作成した冊子



まちのがっこうでワークラの法人会員（有限会社ラポール）がお菓子作りのプログラムを提供、実施している様子



ワークライフ・コラボのHPのQRコード

ますます人々のライフスタイルは多様化し、ニーズは多岐にわたることが予想される。多様なニーズに対応していくためには、活動資金の収支のバランスを図っていかねばならない。

り具体的に思い描けるよう、地元企業（で働き、子育てをする男女）と学生をつなぐことを目的としている。プロジェクトでは、その役割となる地域コーディネーターを養成するための養成講座や、学生が子育て中の企業勤務者のお宅を訪問する子育て家庭訪問インターンシップなどを企画し、協働で実施している。このような踏み込んだ取り組みにより、学生にとっては、ライフプランを考えるきっかけとなり、コーディネートを学ぶうとする地域の方々にとっては地域のなかでの役割や今の学生の現状、女性が働く現状（企業の現状）を広く知る機会となっている。

近年の少子高齢化や核家族化は地方でも加速度的に進んでおり、若者が自分の将来を考えるときのロールモデルの不在または、（男は仕事、女は家庭というような）性別役割を担った親しか身近な大人がいけないケースが少なくない。

◆◆◆ シーダー（種をまく人） となる人の連鎖

ワークラは自主事業として続けている「地域でのコミュニティづくりの場」をいくつか持っている。平成21年から定期開催している、働く女性が職場や家庭以外の横のつながりを持つ場となる「ワーキングマザーランチ会」、育児休業前後の悩みや相談事を当事者や経験者を交えて情報共有する「育児タイム」、子どもを預けて働くことへの理解と知識を深める「子どもを預けて働く基礎知識」などだ。参加者は、仕事と子育ての両立について何らかの不安や悩みを抱える女性が多く、「両立のことで悩んでいいんだ」「私だけじゃない」と、思いを共有することは自分を認めることにつながる。

このような座談会や勉強会を重ねていく中で、ワークラの活動に賛同してくださる会員さんは徐々に増え、シーダー（種をまく人）となる人が現れはじめた。「育児取得社内第1号」や「初の女性管理職」、さらには地域の役割を担うようになるなど、何かしらはじめの一步を踏み出す人が少しずつ増えてきた。

女性の幅広いライフステージに寄り添うことが、「人育て」地域を育てる」となり、ひいては地域の活性化につながるのではと私たちは考える。しかし、人を育てることは数値では測れない。愛媛に暮らす人・地域・企業が、周りで起こっている課題に気づき、解決に向けての目標を共有することが、豊かな未来への新たな一歩になるのではないだろうか。

愛媛県のすべての女性が「自分の人生のかじ取りは自分でする」という意識をもち、その実践者として次世代へバトンを渡したい。

◆◆◆ 私たちの課題

これまでのワークラの活動を振り返ると、行政からの受託事業の割合が8割以上を占め、自主事業とのバランスを欠いている現状がある。今後